



目次

病診連携施設紹介「甲府市北東地域包括支援センターご挨拶」	1
看護部だより	2
職場紹介「検査科」	3
医療安全管理室	4
ア・ラ・カルト「運動器の10年 日本縦断」	5
お知らせ「新任・転任のごあいさつ」「重症心身障害者病棟夏祭り」	6
患者数	6
外来医師担当表・特殊外来ご案内・就職説明会	7

発行：独立行政法人 甲府病院 広報委員会
国立病院機構
発行責任者：長沼博文
住所：〒400-8533 山梨県甲府市天神町 11-35
電話：055-253-6131
ファックス：055-251-5597
ホームページ：<http://www.kofu-hosp.com/>
Eメール：kofu@kofu.hosp.go.jp
携帯サイト用QRコード



「SL やまなし号」

5月29日～6月6日までの間、「山梨・中央線キャンペーン」の一環として、懐かしのSL（蒸気機関車）が甲府～小淵沢間を走りました。イベント当日、甲府駅のホームではたくさんの観光客がその姿を写真に納め、甲高い汽笛とともに出発した際には拍手と歓声が湧き起こり、もうたると蒸気とともに力強く進むその勇姿に、目を細めていました。（写真・文 管理課庶務係 山田 昌弘）



独立行政法人国立病院機構
甲府病院の理念

理念

私たちは、良質な医療の提供を通して、患者さんの健康を支え、地域社会に貢献します

基本方針

●丁寧な説明に努めます ●自己研鑽に励みます ●職員同士協力し合います

私たち職員は、理念を実現するため最善を尽くします

病院は、職員の働きやすい環境を積極的に提供します

病 診 連 携 施 設 紹 介

「甲府市北東地域包括支援センター ご挨拶」

甲府市北東地域包括支援センター

主任ケアマネジャー 小名木 健

公的機関として甲府市に10箇所ある地域包括支援センターも開設から5年目を迎えました。甲府市北部の相川地区と北新地区を担当地域とする私共は、地理的に独立行政法人国立病院機構甲府病院を支援地域の中心とし、地域の総合相談窓口として日々の業務を行っています。

介護関連をはじめ日々の生活の事等多くの相談が寄せられます。高齢者本人からはもちろん、ご家族や近隣の方等相談者は多岐にわたりますが、熱心に地域で活動されている自治会長さんや民生委員さんからの相談が多いのが特徴です。

医療に関する支援は認知症や精神疾患、虐待等も加わり困難に直面しますが、独立行政法人国立病院機構甲府病院においては長沼博文院長をはじめ各科の先生方が退院前や外来診察時に生活状況や背景に熱心に耳を傾けてくださるので、最適な医学的管理の中、早期の解決に結び付けることが出来ています。

その際私共やケアマネジャーと病院の橋渡し役となる医療相談室のソーシャルワーカーさんは、様々な依頼にも迅速な対応をしてくださり感謝しています。ソーシャルワーカーさんを囲んでの勉強会等を行い、共に地域を支える仲間として自己研鑽に励んでいます。

「国立さんがあるから安心」独立行政法人国立甲府病院が地域に密着した医療を提供していることで、複雑多岐な相談もスムーズに支援できることを地域の皆さんの言葉からも日々実感しています。これからもどうぞよろしくお願ひします。



センター外観

■地域包括支援センターとは

各市町村に1ヶ所以上設置されている公的機関で、専門職員として保健師・社会福祉士・主任ケアマネジャーらが配置されています。相談は無料です。

■住所

〒400-0003 山梨県甲府市塚原町359
Tel 055-252-3398
Fax 055-252-1602
e-mail aikawa3@kashinokai.or.jp

■対応時間

24時間・365日

看護部だより

「看護師長紹介」

副看護部長 白川 由起子

平成22年度もスタートし2ヶ月が過ぎました。今年度は例年より多くの新人を迎え病棟は、患者さんに安全で安心した看護が提供できるよう新人教育に全力を注いでいます。又病棟の要である看護師長も2名を迎え、共に頑張っているところです。今回は2名の看護師長を紹介致します。又新人の成長ぶりは今後皆様に紹介させていただきたいと思います。

転勤で参りました

4病棟看護師長
相原 昭子

このたび、まつもと医療センターから配置換えで参りました相原です。昨年度まで6年間、松本まで電車通勤をしていましたが、この4月地元の甲府病院に戻ってきました。現在は車で15分の通勤をしています。

4病棟は混合病棟ということで、小児科から内科・外科と幅広い看護を実践しています。そんな中でスタッフ一人一人が看護に対して誠実に取り組んでいることを強く実感しています。私も患者様が甲府病院に入院して良かったと感じて頂けるような質の高い看護が提供できるように、甲府病院の看護師長として頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。



はじめまして

手術室・中材看護師長
林 由美子

4月1日付けで、国立がんセンター中央病院より昇任し、甲府病院の手術室・中材の看護師長に配属されました。山梨に住むのは初めてです。こちらに来て2ヶ月、季節の花や山々からのぞく富士山を見るのが楽しみになりました。

手術室は、特殊な環境ですので、怖いイメージを持つ方が多いと思います。8名のスタッフは、そんな患者様の思いを理解し対応できる明るく思いやりのある看護師です。患者様とは、手術中の数時間の関わりですが、限られた時間だからこそ最善の準備で患者様をお迎えし、少しでも不安が軽減されるようお一人お一人に合わせた看護を行って行きたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



職 場 紹 介

「研究検査科」

医化学主任 小澤 仁

研究検査科は、検査科長（医師）、技師長、副技師長、主任技師、技師の医師 1 名臨床検査技師 9 名で構成されています。

信頼される臨床検査結果提供のため日々努力を重ね、夜間・休日（自宅待機）も含め検査を行っています。また、院内の輸血療法委員会、感染対策チーム（ICT）・栄養サポートチーム（NST）などのチーム医療に参画しています。特に感染対策については、研究検査科からの迅速な情報発信が重要なカギとなります。その他に糖尿病教室では、参加者の皆様と一緒に勉強する機会も年数回あります。



検査受付（採血受付）

『臨床検査』は、治療の入り口でもあり、病気の早期発見や経過観察、治療効果の判定に大きく貢献しています。当院の検査は、大きく分けて生体検査（生理学的検査）と検体検査があります。

《生体検査》

心電図、肺機能、聴力、脳波、血圧脈波、心臓・腹部超音波などの各種検査があり、患者様と直接お会いして検査を行っています。これらの検査は、患者様自身の身体に直接触れますので、検査などに対する恐怖心や不安感を出来るだけ和らげるように検査説明など十分に行うよう努力しています。



超音波検査室

《検体検査》

検体検査は、7 部門に分かれ、患者様からの採取した血液・尿・便・喀痰・分泌物・切除した組織などを用いて検査を行っています。

血液 検査 : 血液細胞分類・計測を行ったり、血液の凝固する力を測定しています。

生化学検査 : 血中の血糖値やコレステロール値などの栄養状態・肝機能・腎機能など臓器の状態を調べています。

免疫 検査 : 肝炎ウイルス検査や感染症に対する抗体や腫瘍に対する特殊マーカーを調べています。

輸血 検査 : 詳細な血液型を調べたり、輸血剤の適合性を確認し払い出しを行っています。

一般 検査 : 尿中の赤血球、白血球、蛋白、糖等の有無から腎臓や肝臓の異常や、便から消化器の異常などを調べています。

微生物検査 : 「正確な感染情報を迅速に報告!!」を目標に日々がんばっています。

病理 検査 : 病気の診断や原因の究明を目的として、採取された組織、細胞を対象に顕微鏡をもちいて診断を行っています。



検体検査室

医療安全管理室より

「医療ガスの取り扱いについて」

医療安全管理係長 中田 寛子

5月に医療ガスの取り扱いについての研修を行いました。当病院では酸素をはじめ、麻酔時に使用する亜酸化窒素（笑気ガス）等の医療ガスを取り扱っています。医療ガスにはそれぞれ特性があり、その特性を理解して取り扱わなければ重大な事故につながる危険性があります。事故事例も交えた内容であり、取り扱い方法や危険性を再認識する機会となりました。



医療ガスの中で酸素はよく知られており、使用頻度が高いものです。酸素には燃焼を助ける作用があるため、酸素が吹き出している近くで火を取り扱っていると火傷や火災等の事故につながります。病院内では病室をはじめ、各所に酸素の配管を設備しております。安全な環境の中で酸素を使用できるように、院内では火気の原因となる喫煙は禁止しております。

酸素は院内だけでなく、在宅で使用する場合があります。その場合は火気厳禁というわけにはいきません。酸素を吸入中の患者さんが喫煙し、火傷や火災が発生する事例があります。安全に酸素を使用いただくために下記の注意事項を掲示させていただきます。

- ①高濃度の酸素を吸入中に、たばこ等の火気を近づけるとチューブや衣服等に引火し、重度の火傷や住宅の火災の原因となります。
- ②酸素濃縮装置等の使用中は、装置の周囲2 m以内には火気を置かないでください。
特に酸素吸入中には、たばこを絶対に吸わないで下さい。
- ③火気の取扱いに注意し、取扱説明書どおりに正しく使用すれば、酸素が原因でチューブや衣服等が燃えたり、火災になることはないのです。過度に恐れることなく、医師の指示どおりに酸素を吸入してください。

「運動器の10年 一障害者100人による日本縦断駅伝」

スポーツ・膝疾患治療センター 落合 聡司

去る3月8日～10日に、われわれスポーツ・膝疾患治療センタースタッフは、WHO承認活動「運動器の10年」の国内キャンペーン「障害者100人による日本縦断駅伝」にサポートドクターとして参加してきました。同キャンペーンは、骨や関節など運動に必要な器官の重要性を訴える世界運動の一環です。本年2月21日沖縄県を出発し、4月16日北海道にいたる全行約2,300kmを、運動器に障害を持つ方々100人が、電動アシスト自転車・手こぎ自転車・車椅子などを利用してタスキをリレー、各県において「運動器の大切さ」をアピールしました。

当センターからは渡邊義孝医師と私、リハビリテーション科から浅野厚雄理学療法士が参加し、静岡県～山梨県区間を受け持ちました。嬉しくも当センターで治療した6名もの患者さんが、走者として名乗りをあげ参加して下さいました。私が担当したのは静岡県豊橋市～島田市の全行85kmで、山梨県出身の冒険家の風間深志氏（自身が下肢に障害をもつ「運動器の10年」親善大使）とともに、当センターで膝靭帯損傷を手術・治療した3名の患者さんが電動アシスト自転車にて同区間を走行しタスキをつないでいただきました。（なお萩野哲男部長も参加予定でしたが大雪のため不参加。）



この区間の走者は皆、私が手術を担当した患者さんで、1名は乗馬中の事故で受傷し、運動器の重要性を深く認識され、現在もパーソナルトレーナーのもと筋力トレーニングを実践している男性、2名の患者さんは治療経過が良好で元の競技に復帰されているトップレベルのママさんバレーボールプレーヤーでした。復調してしまえば一般人以上の体力を有する面々で、サポートするどころか遅れず伴走するのに精一杯でした。

優美な浜名湖から喧騒な浜松市の街道、小雨降る掛川市の峠道を経て無事ゴールへ、皆トラブル無く完走することができました。長くて辛い道中でも楽しげ、元気に自転車を乗られる姿が印象的で、順調に回復されている勇姿をみられたのが主治医の私にとっては至福でありました。

常日頃、患者さんとわれわれ医療従事者は医療を通じて障害と闘う同志と考えておりましたので、本キャンペーンにて患者さんと病院外で力を合わせゴールをめざし、またその回復具合を間近で確認できたことは生涯忘れ得ない貴重な体験となりました。本キャンペーンでの任務は完了しましたが、運動器に障害を抱えた方々をサポートするのが我々の使命であります。今後も研鑽を積み、最善な医療の提供でもってサポートを続けていきたいと考えております。



お知らせ

新任・転任の
ごあいさつ

経営企画室長 藤澤 政之

4月1日付で東長野病院から昇任で経営企画室長として参りました藤澤です。

山梨県は以前西甲府病院に勤務したことがあり、二十六年ぶりの甲府の地です。当時の甲府病院は建物が古く、手狭な敷地に看護学校が併設されていたのを記憶しています。

今回の赴任にあたり、甲府病院は建物自体が新しくアメニティが充実しているのが目を引きました。病院の規模も大きからず小さからずというところなんだろうが、この甲府盆地には人口に比して競合する病院が多くあり、今後如何に特色を生かして患者さんを集められるかが、経営的には課題かもしれません。

医療連携も担当して参りますので、みなさんのお知恵も借りながら、少しでも健全な病院経営のお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



管理課長 藤原 保

赴任して2ヶ月余り過ぎてしまいました。ご挨拶が遅れて申し訳ありません。

甲府病院は20年ぶりの勤務となります。私は山梨が地元ですから、西甲府病院と甲府病院2つの病院の勤務経験がありますが、統合してこのような立派な病院になった事は非常に嬉しいことだと思っております。新病院として開院し10年を迎えようとしていますが、今後も地域の皆様に信頼される病院となれるよう日々努力していきますので、よろしくお願い致します。



小児科医師 石井 佐綾香

4月1日より新しく就任しました小児科の石井と申します。3年ほど前にも当院に勤務していたことがあり、重症心身障害病棟、一般小児科、神経外来を担当させていただいていました。現在は、新生児医療にも携わっています。小児・新生児の急性の疾患を診るだけでなく、ハンディキャップを抱えながら地域で生活している方々やご家族のお役にたてるように努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



循環器科医長 葉袋 路子

4月より就任致しました。循環器領域を担当させて頂いております。もともとは甲府出身ですが、県外の大学で学び、その後も出身大学の付属病院に勤務していたため、甲府で生活するのは十数年振りです。山梨はやはり自然が豊かで、医局の窓から見えるアルプス、八ヶ岳、雲の浮かぶ広々とした空に癒されています。このような心身共にゆとりのある環境で働かせて頂けることに、感謝致します。まだ不慣れな点も多く、ご迷惑をお掛けしますがどうぞよろしくお願い致します。

重症心身障害病棟 夏祭り



7月28日(水) 18:00頃~19:30頃、当院恒例となりました重症心身障害病棟の夏祭りが行われます。病院の中で治療を受けながら生活している、約120名の方々が体調の許す限り参加なさいます。例年、地元の方々のご協力を得て、音楽演奏、盆踊りなどのイベントを楽しみます。締めくくりは花火です。大きなものではありませんが、花火師さんの技が見ものです。昨年は雨天の為、療育訓練棟で行いチームMOMO華によるじょいそーらんの踊りを楽しみました。今年も皆さんが楽しめるような企画を計画しています。よろしかったら夕涼みのお散歩のついでに足をお運びください。



平成22年度一日平均患者数

入院

※5月分及び年間累計は5月末日現在 (小数点以下第2位は四捨五入)

種別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一般		99.9	91.6											95.7
重心		121.1	120.5											120.8
計		220.9	212.2											216.5

外来

※5月分及び年間累計は5月末日現在 (小数点以下第2位は四捨五入)

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	257.8	273.8											265.2

外来医師担当表

平成22年6月1日現在

		月	火	水	木	金		
一階 診察室	内科	1	渡 邊	10時~ 渡邊	渡 邊	渡 邊	渡 邊	
		2	黒 澤	黒 澤	黒 澤	呼吸器科 菱山	黒 澤	
		3	川 口	循環器科 佐野			中 尾	太 田
		4	循環器科 葉袋	古 屋	古 屋	循環器科 葉袋	循環器科 葉袋	
		5						
	特殊外来 午後3時~		渡 邊					
	外科	1	鈴 木	牧	角 田	鈴 木	牧	
		2	浅 川			乳腺外来 高橋	肝臓外来 鈴木	
	消化器科	1		稲 岡	稲 岡			
		2	澤 田	澤 田	澤 田		澤 田	
整形外科 (スポーツ・膝疾患治療センター)	1	萩 野	渡 邊	渡 邊	萩 野	萩 野		
	2	千 賀	落 合	落 合	落 合	千 賀		
	3							
二階検査室	内 視 鏡	稲 岡	大学講師	大学講師	澤 田	浅 川		
	工 口	午前	大学講師	腹部 検査科 心臓 葉袋		腹部 検査科		
二階 診察室	小児科	1	内 田	内 田	加 賀	久 富	久 富	
		専門外来1 (午後)	神 經 畑	神 經 中村	神 經 神谷	第1・3週食 小野	代 謝 内田	
		専門外来2 (午後)	フォロアップ 久富	フォロアップ 久富				
	脳神経外科 (2階旧泌尿器科外来)	長 沼		長 沼	長 沼	長 沼		
	泌 尿 器 科		大学より 午前午後					
	産婦人科	1	滝 澤	雨 宮	滝 澤	雨 宮	高 木	
		2	雨 宮	高 木	原	高 木	滝 澤	
3			原		妊健 助産師外来	原		
眼 科	予約のみ 10時迄	地 場	地 場	地 場		地 場		
耳 鼻 咽 喉 科					矢 崎			

- 受付時間 初診/午前8時30分~午前11時00分 再診/午前8時20分~午前11時00分(再診で予約を取られている方は予約時間まで)
- 予防接種(小児科) 毎週木曜日(完全予約制)
- 乳児健診 毎週 火・金曜日(完全予約制)
- 毎月第4金曜日 糖尿病教室 黒澤医師
- 人間ドック 毎週 火・木曜日 脳ドック 毎週 月・火曜日

特殊外来ご案内

- ・「乳腺外来」については、毎週木曜日の午前中に行っています。乳房にしこりなどの異常を感じたら、すぐに受診されることをお勧めします。
- ・「肝臓専門外来」については、毎週金曜日の午前中に行っています。近親者に肝炎の方がいらっしゃるなど自分も肝炎にかかっているのでは、とご心配な方、健康診断で肝機能障害を指摘された方などは受診されることをお勧めします。
- ・「物忘れ外来」については、脳神経外科で行っています。認知症かな、と思ったら、受診されることをお勧めします。

◆平成22年度 看護職員就職説明会◆

開催場所	独立行政法人国立病院機構甲府病院 4F大会議室
開催日時	第1回 平成22年 ※終了しました 第2回 6月27日(日) 13:30~16:00 第3回 7月28日(水) 13:30~16:00 第4回 8月4日(水) 13:30~16:00
タイムスケジュール	13:15 受付開始 13:30 オリエンテーション 13:35 国立病院機構・病院・看護部の概況の説明 インターンシップの説明 看護単位・教育の説明 14:45 施設見学(宿舎) 15:30 処遇・宿舎・採用試験の説明 16:00 質疑応答・解散
申し込み方法	*下記の電話番号に(土日休日以外)に直接ご連絡下さい。当日参加も受け付けます。
連絡先	国立病院機構甲府病院 看護部 副看護部長 白川 由起子 TEL:055-253-6131 FAX:055-251-5579